

子育て世代包括支援センターとの連携による

大学発アートを取り入れた予防的教育

—個人や社会にもたらす変化とその評価—



正保正恵¹・渋谷清¹・古山典子¹・山内加奈子¹・上山瑠津子¹
・田中直美¹・渡邊真帆¹・弘田陽介²
(¹福山市立大学, ²大阪公立大学)

研究のプロセスと展開

2017年度

「ネウボラ（継続的子育て支援）の**日本的展開の可能性**」

2018年度

「子育て世代包括支援センター（日本版ネウボラ）**活性化の課題と大学の役割**」

2019年度

「子育て世代包括支援センター（日本版ネウボラ）における**多職種連携と研修のあり方**について」

2020年度

「子育て世代包括支援センター（日本版ネウボラ）における**オンライン相談の可能性と予防的教育**について」

2021年度

「子育て世代包括支援センター（日本版ネウボラ）との**連携による予防的教育**について」

2022年度

子育て世代包括支援センター（日本版ネウボラ）との連携による**アートを取り入れた予防的教育**
—通常/要支援妊婦等を対象として—

2023年度

子育て世代包括支援センターとの連携による
大学発アートを取り入れた予防的教育

問題背景

2021年度の活動によるHP

子育て支援研究会

[ホーム](#) [講義動画](#) [お役立ち情報](#) [お知らせ](#) [お問合せ](#) [🔍](#)

福山市立大学

妊娠期からの子育て支援研究会

研究会の概要

この研究会は福山市立大学教育学部の教員が中心となり、福山市ネウボラ推進課と連携しながら妊娠期から出産後の親子を応援するために立ち上げたものです。この研究会では、妊娠中から子育て中のお母さんやパートナー、そしてそのご家族に対する支援に関する研究を進めており、ワークショップを実施中です。ここでは、その様子を動画で配信しています。

研究会メンバー紹介

正保 正恵（しょうほまさえ）

研究代表者

福山市立大学教育学部 教授

専門：家庭科教育・家族生活教育



問題背景のキーワード

ケア

妊娠・出産・子育てという不安な時間，様々なリスクや社会的な圧力の中で，**自分の納得がいく場**を見出す

アート

= 自身の心と体の状態，日常生活をより見つめることができる技術

生活を支えるアート：物語性・聴覚性，触覚性，視覚性

問題背景のキーワード

異分野

家政学,美術教育学,音楽教育学,臨床心理学,
発達心理学,教育哲学,幼児教育学

AMC by 異分野

英政府機関The AHRC Cultural Value Project の研究成果
に基づく個人の内省, アイデンティティ, 主観的幸
福感等についての効果を検討

目的

本研究の目的は、**妊娠期の親への支援**として、**異分野の専門家が連携しアートを取り入れたワークショップ**を開催し、**予防的教育の実践方法**を探ること。



WSの実施

〈ワークショップの目的〉

妊娠中の女性とそのパートナーが

心と体をアートを通して落ち着けること

〈概要〉

日程：2023年9月の3週

対象：初妊婦（中期）と
そのパートナー

場所：福山市立大学

参加費：無料

〈調査〉

- ・ビデオカメラやデジタルカメラ等で撮影し記録
- ・参加者へのインタビュー（初回・最終回）

〈倫理的配慮〉

- ・参加者に本調査について説明し，同意を得た

ワークショップの実施

- 配布方法
- ネウボラ推進課を通し配布
- 公民館に配布
- 本学HP



福山市立大学 教育研究交流センターワークショップ

これからの子育てに

安心・安全を感じるためのアートを活かしたワークショップ



- 日時 2023年9月2日(土) 9月9日(土) 9月23日(土) (部分参加:可)
- 場所 福山市立大学内各教室
- 定員 先着 10組(単独参加可) ※申込締切 2023年8月31日(木)

- 参加条件 初妊婦もしくは初妊婦とそのパートナー
- 注意事項 新型コロナウイルスの感染状況により Web 配信に変更する場合あり
- 参加費 無料 ※特別な技術も準備物も不要
- 申込方法 右の QR コード、または下記 URL から

<https://forms.office.com/r/gk6txS0fqN> (今年用に)

今年度
用 QR

●日時と内容

		9月2日	9月9日	9月23日
10:00~10:45	内容	はじめに・自己紹介	体が落ち着く ボディワーク	心が落ち着く 背守り刺繍
	担当者	正保 他	弘田	正保
10:55~11:40	内容	音でのやりとりを 楽しもう	懐かしの 絵具あそびを味わう	赤ちゃんを迎える 環境づくりのヒント
	担当者	古山	渡谷	渡邊
11:50~12:35	内容	対話で新たな考えを 得ることを楽しもう	イラッとする時の 対処法	赤ちゃんの発達って 面白い!
	担当者	田中	山内	上山
12:35~12:50				リフレクション 正保 他

※ 研究の一環でもあるためアンケートやインタビューのご協力をお願いすることがありますが個人が特定されることはありませんので、ご安心ください。

●交通アクセス

市内路線バスを利用する場合

●中国バス

福山駅 2 番乗り場 手城経由引野口行き
「手城入口」で下車、徒歩 2 分

●中心部循環路線 まわローズ

福山駅 10 番乗り場 「リーデンローズ入口」で下車後、徒歩 10 分

自家用車を利用する場合

●来学者駐車場

大学から市道福山港沖野上線を挟んで東側に約 60 台分、
身体障がい者用 2 台分

●大学北側駐車場 (大学建物に隣接)

※駐車スペースには限りがあります。なるべく路線バスなどの
公共交通機関をご利用ください。



主催：福山市立大学教育研究交流センター 協力：福山市立大学ネウボラ推進課



正保 正恵 福山市立大学教育学部 教授

専門領域は、**家族生活教育、家政学、家庭科教育**。なかでも、親支援研究として、フィンランドのネウボラには、2回ヒアリングに行っている。主な共著書に、『子育ては胎児から』（岡山県産婦人科医師会）、『家族生活の支援—理論と実践—』（建帛社）、『助産ケアの基本』（日総研）など。3歳6か月(女児)、1歳8か月(男児)の祖母でもある。



古山 典子 福山市立大学教育学部 教授

専門は**音楽教育学**。子どもたちがどのように音や音楽を経験しているのか。また音楽(科)教育の意味や内容。そのあり方について、子どもたちが音楽する姿のフィールドワークを行いながら、考察することに関心を寄せている。共著書に『おんがくのしくみ』（教育芸術社）や『音楽を学ぶということ』（教育芸術社）などがある。



田中 直美 福山市立大学教育学部 講師

専門は**教育哲学**。自分とは異なる背景や意見をもつ他者との共在をテーマに、ドイツ・ユダヤ思想における「対話」概念を手がかりに、理論的・思想的に研究している。文献研究にとどまらず、学生とともに哲学対話の実践もおこなっている。共著書に、フランク・ローゼンツヴァイク『新しい思考』（法政大学出版局）がある。



弘田 陽介 大阪公立大学文学部教授
(元・福山市立大学教育学部)

専門は**教育哲学、身体論**。福山市立大学を経て現職は大阪公立大学文学部教授。主な著書に『電車が好きな子はかしこくなる—鉄道で育児・教育のすすめ』（交通新聞社新書）、棚澤明子氏との共著『いま、子育てどうする? 感染症・災害・AI時代を親子で生き抜くヒント集35』（彩流社）ほか。3人の男の子(高2、中2、小5)の父。

絵画教育の視点から西洋画(油彩画)の技法研究と抽象的な絵画作品研究を進める。東京、広島をはじめ全国のギャラリー、美術館で個展を開催。自ら洋画家として表現活動すると同時に、美術教育者として“造形あそび”の要素を取り入れた表現教育をワークショップや公開講座等で実践展開している。

渋谷 清 福山市立大学教育学部 教授



専門は**臨床心理学**。これまで小児科、発達小児科、周産期センターで臨床心理士として勤務。その後、大学教員の一方便で企業において精神的な問題を抱えた人や健康な人をより健康にするための支援に携わっている。1×1の関わりだけでなく、公衆衛生的な視点をもちつつ親子、労働者、高齢者の調査研究を行っている。

山内 加奈子 福山市立大学教育学部 講師



専門は**幼児教育学、保育学**。特に、保育実践や保育環境をテーマに研究している。保育士、広島県教育委員会乳幼児教育支援センターでの幼児教育アドバイザーを経て2022年4月より現職。

渡邊 真帆 福山市立大学教育学部 講師



専門は**保育学、発達心理学**。主に保育者の専門性の発達をテーマに、専門職としての子ども理解や省察の方法について研究している。また、保育所、幼稚園等での園内研修やフィールドワークを通して、乳幼児期の子どもの発達や環境構成についての調査研究を行っている。

上山 瑠津子 福山市立大学教育学部 准教授



乳幼児期の子どもの行動や姿について発達の意味を理解していくことは、育ちへの見通しを持つ上で重要になる。そこで、生後1年間の乳児と養育者との関わりの映像視聴を通して、運動、言語、社会的な発達の姿を紹介した。(上山)



赤ちゃんの
発達って
面白い！

安心感をもって赤ちゃんを迎えられるよう生後1年頃までの家庭の環境づくりをテーマに講座を実施した。赤ちゃんとのコミュニケーションや遊び、一緒に楽しめる玩具や絵本を紹介した。安全のために気を付ける点についても解説した。(渡邊)



赤ちゃんを
迎える
環境づくり
のヒント

育守り刺繍とは、かつて庵よけのお守りとして庵よけのお守りとして子どもの着物の着中の縫い目に施された刺繍。現代では心を落ち着かせて着物の着中などに刺繍をすることで安心・安全を願うことを講座した。(正保)



心が
落ち着く
育守り刺繍

9/23

一般的に妊娠は喜ばしい事象だが、一方で高いストレスにさらされることも知られている。コロナ禍以降、感染対策のために妊婦のコミュニケーションは限定的になりやすく身近な人との関係が重視される。そのため、妊婦やそのパートナーに対して感情コントロールやストレス対処法などを体験的に学んでもらう心身の健康に役立つ学びを提供した。(山内)



イラっとする時
の対処法

音での
やりとりを
楽しもう

人は音を出してモノ・コトとの関係性を結んでいることの再認識を意図した実践を行った。まず、音の響きに聴覚・視覚を通して入り、音そのものと自己の対峙を促すとともに、他者と音によるコミュニケーションを図る活動に取り組んだ。(古山)



対話で
新たな考え
を得ること
を楽しもう

安心・安全な場を構築するため、そして他者と共に生きる方法を見出すために、「共に問い、考え、語り、聞くこと」という「哲学」を体験する講座を実施した。(田中)



9/9

体が落ち着く
ボディワーク

わたしたちの等身大の身体を通して安心をどのように得てもらうかが課題と考えて、日本の古典的な文化の所作や技に落ち着きの感覚を見出す身体技法を体験してもらった。(弘田)



懐かしの
絵具あそびも
味わう

絵具あそびは、既に「造形遊び」の一つとして幼児期から児童期の美術教育の中でも広く取り込まれていることである。色や形や様々な材料に「遊び」を通して親しむことを目的としているわけだが、一方でそこに現れる色や形を味わうことで「心の解放」の効用が期待できる。実践では色や形に対し直接的な関わりを意図した造形遊びの絵具あそびを体験した。(辻谷)



アート
×
ケア

インタビューを通したワークショップの評価

1. 講座情報の入手経路は、公共施設に配布しているチラシであった。
→ HP等のデジタル情報のみではなく、アナログ情報も依然として必要。
2. 感想として「楽しかった」という言葉が目立った。
→ 妊娠生活や子育てに直接的に学べた知識内容と共に、アートを通したWSが気分転換になったという。
3. 今後受けたい講座は、一緒に実践できる体験といった書き込みがあり、「繋がる」ことへの希求があるということがわかった。
4. アートで安心・安全な気持ちを育むといった本WSのコンセプトは、受け入れられた実感がある。

成果と今後の課題

本実践の下敷きには、Geoffrey Crossick, Patrycja Kaszynska (2022)がある。大学に市井の人々が集まり、議論や一緒に楽しむ機会を上手に作っている場所はまだ多くはないだろう。大学と地域の行政が連携した異分野グループによる本実践は、The AHRC Cultural Value Project の研究成果に基づく「個人の内省」，「アイデンティティ」，「主観的幸福感」などの効果を見出した。地域の妊娠中の女性及び家族支援を行う本実践から、真の学びを生み出す大きな意味が見出された。今後もアートとケアが出会う、大学発のアートの場をさらに展開させていきたい。

引用文献・謝辞・付記

Geoffrey Crossick, Patrycja Kaszynska (2022)『芸術文化の価値とは何か一個人や社会にもたらす変化とその評価』水曜社
東京藝術大学 Diversity on the Arts プロジェクト, 坂口恭平他(2022)
『ケアとアートの教室』左右社

謝辞

本研究を進めるにあたり、ネウボラ推進課、WSにご参加いただいた妊婦さまとパートナーの方に心よりお礼申し上げます

付記

本研究は本学教育学部「学術の日」にて成果発表を行い、2024年度教育学部紀要に投稿予定。

2024年度は、
対象をより
広く、新館
にて。

連続ワークショップシリーズ 1

人とつながり アート&ケアに出会う

2024年9月28日(土)・10月5日(土)・10月19日(土)

@ 福山市立大学 xxxxx

交通アクセス



中国バス：「手城入口」下車 徒歩2分

中心部循環路線まわローズ：「リーデンローズ入口」下車 徒歩10分

来学者駐車場：大学から市道福山港沖野上線を挟んで東側

※駐車スペースには限りがあります。なるべく公共交通機関をご利用ください

昨年、「これからの子育てに安心・安全を感じるためのアートを活かしたワークショップ」を一般の方にも参加していただくバージョンアップした新企画。妊婦さんとパートナー、子育て中の方、アート&ケアに関心を持つ方々、新施設の見学も兼ねてご参加ください。